

特集

岩手・宮城内陸地震を教訓に！

「この恐怖感を刻み込んで あなたの家の備えは大丈夫？」

「宮城県沖地震ではないか」。…多くの人が一瞬、そう思ったのではないだろうか。

気象庁や地震学者の分析によると、そうではないと言われています。

昭和53年6月12日午後5時14分、マグニチュード7.4の地震が宮城県を襲いました。「1978年宮城県沖地震」と命名されたこの地震では、県内の死者27名、負傷者10,962名のほか7500棟もの住宅が全半壊しました。

地震調査委員会の発表によると、今後30年以内には、99%の確率で、次の宮城県沖地震が発生する可能性があると言摘されています。

働き方や生活のスタイルが多様化し、いつ、どこで、どんな状況で、自分や家族が災



写真：栗原市花山地区で活動する仙南消防隊員

害に見舞われるか、全く予想できません。被害を最小限に抑えるためには、過去の教訓を忘れないことと、一人ひとりの日頃の備えが大切です。

あわてて外に飛び出して被害に遭ったりしないよう、家庭・学校・職場などで防災について話し合い、落ち着いた行動がとれるようにしましょう。

●防災について家族会議

- ・避難場所・避難経路の確認
- ・家族との連絡方法の確認
(災害伝言ダイヤルなど)
- ・避難訓練への参加(地域住民との連携)

今回の地震で、家具の転倒や食器棚からの飛び出した食器の破片などでけがをした人が多数いました。

●家具等の転倒・落下防止措置

- ・家具や食器棚等を転倒防止器等で固定する。
- ・テレビ・パソコン等を固定する。
- ・ガラスには飛散防止フィルムを張る。
- ・開き戸には、留め具をつける。
- ・重いものは、高いところに置かない。
- ・寝室や子ども、お年寄りがいる場所にはできるだけ家具などは置かない。
- ・照明器具・絵画・額縁などに、落下防止器具を取り付ける。

●備えておきたい防災用品等

☑ チェックリスト

- ☐ 飲料水 (1日1人3リットル)
- ☐ 食料 (3日分目安)
- ☐ 懐中電灯 (停電等に必要・予備電池忘れず)
- ☐ 携帯ラジオ (いち早く正確な情報知るため、予備電池)
- ☐ 薬品 (ばんそうこう・三角巾・包帯・消毒・常備薬等)
- ☐ 手袋 (ガラスの破片等だけがないように)
- ☐ ヘルメット (屋根瓦や看板等の落下物から頭部を守るため)
- ☐ 避難場所の確認 (家族が離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所を決めておく)
- ☐ 家具等の転倒防止 (家具やテレビ、パソコン等固定し、転倒や落下防止措置しておく)
- ☐ スリッパ (避難に備えてスリッパ・スニーカー等準備しておく)
- ☐ 消火器 (火災発生に備え、消火器や風呂の水の汲み置きをしておく)